



竹を‘廃棄物’にしない！



繁茂竹林を伐採・整備し、里山保全/竹を資源とした生態系調和型農業による地域循環を目指す。

## 地域を変えようとしたが...

地域の環境悪化の原因ともなっている放置竹林から、やっかいものの竹を伐採、運搬、加工(土壌改良材)、施用することが「廃棄物処理法」に抵触する疑義があり、有用な農業資源であることを実証することが必要となった。

## 地域は変わったのか

竹の有用性を検証する研究目的での、農業利用の実証を3ヶ年について四日市市が認定した。(2017年4月)

## 活動の現状は...

「廃掃法」による縛りの中での協働作業は、当初考えていた以上に留意しなければならない事項や制約も多く、自分たちが思い描く地域循環型には程遠いものとなっている。竹の有用性について、更に3年間の継続した活動の先に客観的な実証結果を得ることにより、地域循環型に結びつくものを見つけたい。



## 変わり続けるには...

里山保全の関心度を上げ参加者を増やし、魅力ある農業へ繋げる人材育成を構築していきたい。

## 変わるための具体策

- ・竹粉を利用した実践「オーガニック農業塾」を開催する。(大学生、一般参加)
  - ・地域住民が共感を持つ「里山・里地の保全活動の輪」を構築する。(親子参加)
- 地域が一体となった環境保全の取組みを実感し、循環の一員となる楽しさのなかに、未来を見据えた人材育成を行っていく。



## この取り組みを継続すると...

- ・里山・里地(荒廃竹林・放棄耕作地)に手が入ることで、生態系保持で地域を守る。
- ・化学肥料による環境劣化が軽減される。地産地消の場として蘇る。
- ・地域住民の環境への関心度が高まり、積極的な環境保全活動への参加が増える。
- ・高齢化社会と若年者の農業離れを修復し、環境に優しい「農業」が展開できる。

**バイオマス社会が人々の協働による環境保全で、持続可能な地域となる。**



竹が地域の資源として有効なことを**研究・実証**し、  
行政や地域で取組みが認識される。



人々により里山・里地が保全され、持続可能な環境  
を守る「場」となり、地域循環の協働が活発になる。



市民・自治会・企業・行政の協働に期待



地域経済循環モデル分析  
生産・需要（付加価値）・支出（地域内消費・投資など）